



1 播種状況

今年は、11月以降、好天に恵まれ圃場の乾きも良いため、麦の播種作業が順調に進められている。播種は、11/15前後から小麦を中心に開始され、例年より播種作業は進んでいる。(小麦6割程度、大麦1割程度終了)

2 今後の管理ポイント

圃場に入って、排水出来る状態か確認を！

①徹底した排水対策 ～畑作である麦の収量品質を上げるためのポイント～

明渠・暗渠を実施する。排水がスムーズに出来るよう排水口の整備を行う。

②土壌改良剤の施用で麦根の健全化 ～pHが6.5程度になるよう石灰資材で改良～

必ず播種前に資材を施用し、pH改善をする。(生育期間中の改善は難しい)

○種子消毒 ～ 苗立ち率向上 ～

小麦の大豆跡圃場や遅まき圃場では、シロトビムシ類の被害が発生しやすくなるため、必ず種子消毒による防除を行う。

対象病害虫	薬剤名	使用量	備考
斑葉病、網斑病、裸黒穂病、なまぐさ黒穂病	トリフミン水和剤	種子重量の0.5%	小麦・大麦
シロトビムシ	アドマイヤー水和剤	種子重量の0.15%	小麦

○播種量 ～小麦は12月以降になると出芽が遅れ、苗立ち率が劣るため播種量を増やす～

(10a当たりの播種量〈目安〉)

	小麦		大麦	
	播種日	播種量	播種日	播種量
適期	11/15～11/30	6～7kg	12/1～12/10	7～8kg
晩播	～12/10	7～8kg	～12/20	8～9kg

・今年は播種時期に好天が続くと予想されているため、播種後に鎮圧を行う。

○播種深度 ～深播きは出芽率低下、シロトビムシの被害に遭いやすくなる～

出芽後の健全な生育のため、播種深度は2～3cm程度とし、覆土は砕土を細かくする。

○雑草対策

○雑草の発生が目立つ場合は、耕起前処理の除草剤(ラクトアップ系やアリグロックL等)で防除する。その際、周辺の野菜等への飛散には十分留意する。

○播種直後処理剤は、砕土が大きいと効果が十分に発揮できないため、鎮圧後(土壤水分が高い場合は鎮圧しない)、登録内の早目の散布を心がける。ただし、翌日に降雨が予想される場合は、降雨後に散布する。

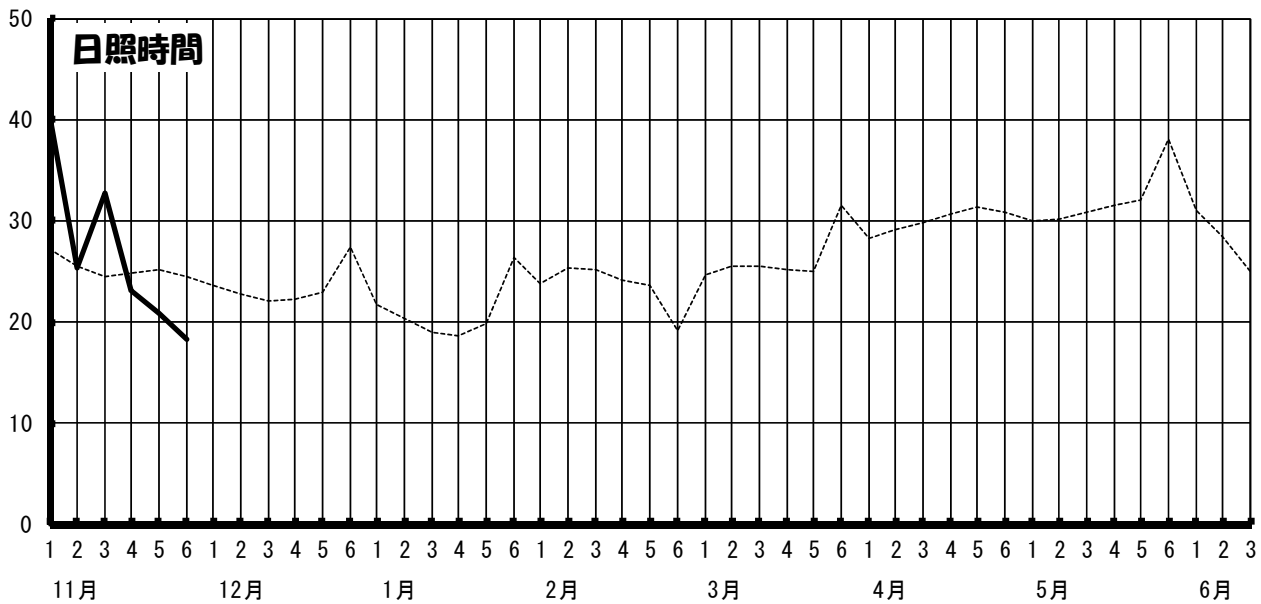
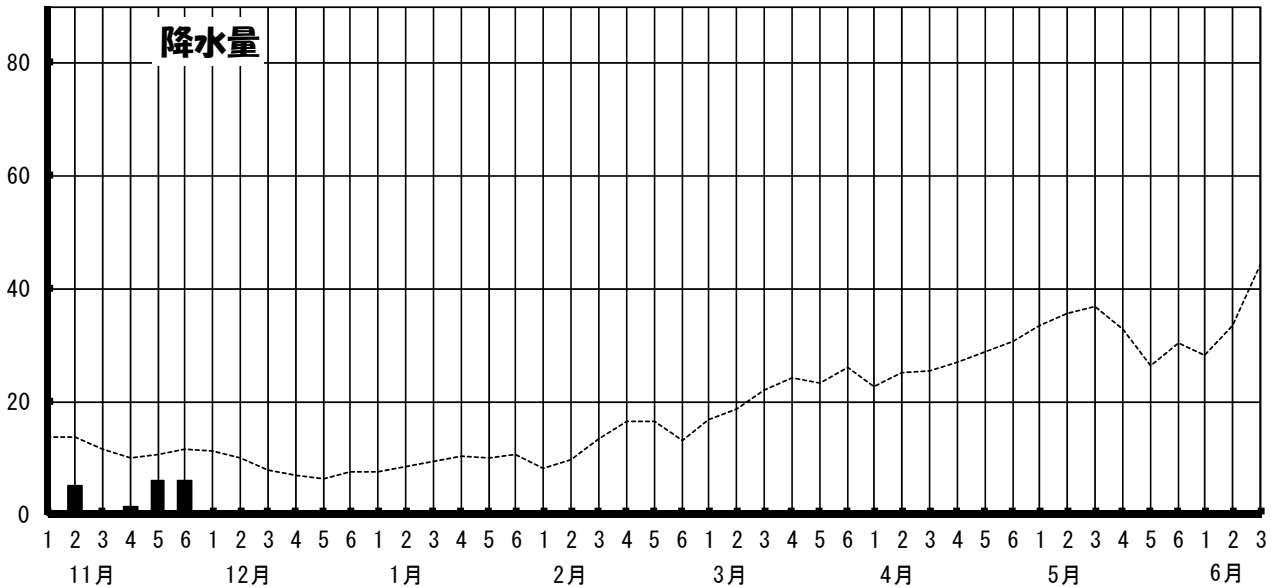
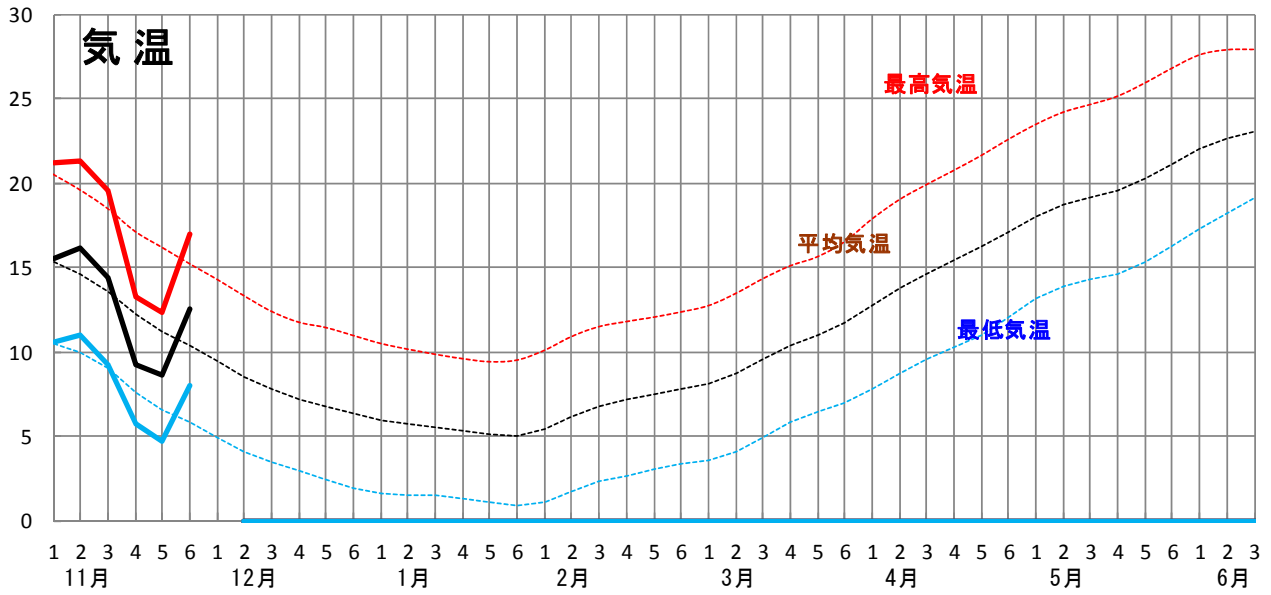
	イネ科雑草	広葉雑草	効果が劣る草種
トリアライド粒・乳	○	△	キク科アブラナ科など 抵抗性スズメノテッポウ
ボクサー	◎	△～○	ノミノフスマ
リベレーター	◎	◎	薬害に注意
キックボクサー	◎	○	

○同一除草剤を連用すると抵抗性雑草の発生による除草効果の低下がみられるので、他薬剤とのローテーションを組み使用する。

30年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値